

◇実践活動記録

第4学年 総合的な学習の時間「神通川をたどる ― 今と昔 ―」

1 ふるさとに関心をもち、進んで関わろうとする子供の育成を目指して

富山市を南北に流れる神通川。現在は、塩の千本桜やアユ釣り等、多くの人に親しまれている。昔は、大水やイタイタイ病等の被害で人々を苦しめてきた。

子供たちは通学時に渡ったり、河川敷のグラウンドでサッカーをしたりするなど、神通川を目にする機会が多い。そこで、子供たちがより興味をもち、生活とのつながりについて理解を深め、進んで関わってほしいと考え、今年度、学習を進めた。

<年間計画>

単元名「神通川をたどる―神通川の今と昔―」(16時間)

【ねらい】富山市を流れる神通川の今と昔に興味をもち、養や出来事、行事について調べ、人々の生活と神通川の関わりや自分たちがよりよく関わるためにできることを考える。

<p>【課題の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 神通川について、源流はどこにあり、どこに流れ込んでいるかを知る。 <p>【問題追究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 神通川に架かる橋やその周りの様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 神通川にかかる橋はいくつあるのかな。 ・ どの橋が一番長いだろう。 ・ 交通量が多いのはどの橋かな。 ・ 橋の近くの川の様子はどうなっているかな。 <p>【学びの振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人々の生活と神通川の関わりについて考えたことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通量の多いところの橋は広い、たくさんの人が速く行きたいところにいけるから便利だ。 ・ 上流の橋より下流の橋が長いのは、川幅が違ふからだ。上流は山が多くて人々の生活はあまり便利とは言えない。でも、木がたくさんあって気持ちいいだろう。 	<p>【課題の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 笹津橋は新しい橋と古い橋が並んでいてことから、歴史に興味をもつ。 <p>【問題追究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 神通川の昔について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 笹津橋の昔のことをもっと調べたい。(インタビュー、資料等) ・ イタイタイ病で苦しんだ人がいたと家の人や言っていたけれど、詳しく知りたいな。(イタイタイ病資料館見学等) <p>【学びの振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 郷土を築いた人々の努力、工夫等に関心し、地域の人々に対しての思いをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 神通川に洪水があって、橋が架け替えられたことから、人々の生活を支えるために多くの人が苦労のおかげだ。 ・ イタイタイ病で苦しんだ人がいたけれど、安全な暮らしができるのは市が土を入れ替えたりお医者さんが病気を研究したり努力してくれたのおかげだ。 	<p>【課題の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 河川敷のグラウンドでサッカーをするなど、今の神通川を活用して人々が生活を楽しんでいることを知る。 <p>【問題追究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 神通川に関わる観光や行事について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「神通川マラソン大会」に家族が参加したよ。大会のことを詳しく調べよう。(インタビュー、資料等) ・ 塩の千本桜はたくさんの方が見に来ていたよ。他にも桜が見られる場所はあるのかな。 <p>【学びの振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人々の生活と神通川の関わりについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 神通川を活用して人々は楽しんでいる。生活と深くつながっていると思った。 <p>【発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ もっと神通川と関わるために自分たちに何ができるか話し合い、校内に提案する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 神通川マラソン大会に参加してみたい。 ・ 来年は花見のときに、神通川の橋を家族にしたい。
--	--	---

2 活動の実際

(1) 神通川の上流から下流まで

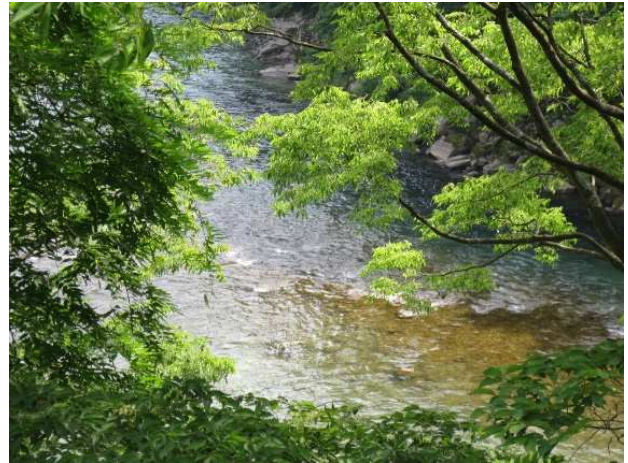


<地図で神通川をたどる>

・ 地図で神通川をたどる学習を進めた。県境で宮川と高原川が合流して神通川になるが、源流は岐阜県の山奥にあり、かなり長い距離を流れていることが分かった。また、流れは、3つの発電所ダムを通過して、南から北へ流れ、富山湾に注いでいることを初めて知った子供たちだった。橋はいくつかかっているのか、流れの様子に違いはあるのかなど、興味をもつことができた。

<宮川と高原川の合流地点付近>

- 神通川の始まり、宮川と高原川の合流地点から神峡橋→笹津橋→新婦大橋→婦中大橋→荻浦橋と神通川をたどった。上流から下流を見学して、流れの様子や河原の植物の様子の違いに気付くことができた。



<神峡橋>



<新婦大橋>



<児童の振り返りから>

山の近くは、町の近くに比べて周りに木や草が多く、川の色も緑だった。町の方は、車の音で流れる音が聞こえなかったけれど、山では静かなので流れる音がよく聞こえた。

宮川の流れが一番速かった。下流に向かって進むにつれ、川の色が変わってきた。車で橋を渡ることがあったけれど、よく見たら、石の大きさや流れの速さなど場所によって特徴が違ってくることに気付いた。

(2) 水上ラインに乗って富岩運河から富山湾へ

- ・ 環水公園から富岩運河を通して、富山港を見学した。大型機械がない時代に、手作業で大きな運河を掘ったことや掘った土を神通川まで運んで埋め立てに活用したことに驚いていた。鳥や魚を見付けたり、ガイドからイルカが来ていたこともあったことを聞いたりして、生き物がすみやすい場所ではないかと考える子供もいた。



(3) イタイイタイ病資料館の見学

- ・ これまで神通川から見える景色や、神通川にかかる橋など、神通川の良いところを中心に見学してきた。しかし、神通川が人々に与えてきたものは決して良いものばかりであるとは限らない。そこで神通川が人々に与えた問題にも目を向けようと、イタイイタイ病資料館を訪れた。イタイイタイ病資料館では、神通川に溶けたカドミウムが与えた被害、イタイイタイ病患者の骨の様子、イタイイタイ病被害者が起こした裁判の内容などを学習した。当時の病院での様子が映し出された映像や当時の人々の生活を表したジオラマを見たり、健常者とイタイイタイ病患者の骨の模型を持って重さを比べたりすることを通して、児童たちは考えを深めていった。



< 児童の振り返りから >

私は神通川がおそろしいと感じました。神通川は、昔は飲み水や農業用水として使われていて、昔の人にとって大切な川でした。そんな神通川の水を飲んだことでイタイイタイ病になってしまい、おそろしいと感じました。しかし、そもそも神通川にカドミウムを流していたことが悪いと思いました。

イタイイタイ病は、昔の人が頑張って育てた農作物を無駄にしたり、多くの人の命を奪ったりして苦しめるなんてひどいと思った。神通川が、昔は人の命を奪ってしまうような川だと知り、驚きました。昔の人が苦しい中、必死で裁判に戦って勝ってくれたおかげで、今の神通川があり、美味しい魚が食べられるんだなと思いました。だから昔の人に感謝しなきゃいけないなと思いました。

<井田川 大坪用水堰>



<笹津橋>



笹津橋は、その昔、吊り橋がかかっていた、渡っている人が落ちて亡くなったことがあると聞いた。1886年に木橋がかけられたが、1年ほどで壊れてしまったこと、その後、1892年にかけられた橋は木材と鉄骨の両方を使ったものだと聞いた。安心して安全に向こう岸まで行くために工夫しているなど、先人の知恵に気付くことができた。また、2代目の橋は、佐藤助久郎という人が私財をなげうって作ったことを聞き、暮らす人々にとって橋は大切に欠かせないものであったと考えた。

<児童の振り返りから>

水辺プラザでは、河川敷にサッカー場やゴルフ場を作ったので、遊ぶことができる楽しい場所です。でも、洪水のときはとても危ないことが分かりました。堤防を新しくするときには、前より高くして洪水の被害を少なくしていることを知りました。堤防は、石やコンクリートにして、崩れないようにしたことも知りました。これまで、たくさん工事を続けて、近くに住む人々が安心して暮らせるように努力してくれていることが分かりました。

今は4代目と5代目の笹津橋が並んでいます。4代目の橋は今から77年前に作られたことが分かりました。戦車が通ったこともあるそうです。5代目の橋は、長さ125m、幅9.5mあり、それを2年間でつくりあげたことを知り、渡る人のことを考えて、早く完成させようとがんばったのだと思いました。

Bコース：松川周辺（「船橋の歴史」の課題に対応）

- ・ 富山市観光ボランティア「紙ふうせんの会」の方々に松川周辺を歩きながら、船橋や松川の歴史について話を聞いた。

神通川の流れを変えた工事の後、松川を残したのは消火用、排水用に活用するためだった。船橋の始まりは、52そうの船を太綱でつなぎ、その上に木の板を3枚ずつ並べて人を渡らせたことを聞いた。不安定な橋から落ちる人が多かったので、太綱が鉄の鎖に変わり、船を64そうに増やし、板の数も5枚、7枚と増やしたことを知り、安全のために工夫されていることに気付くことができた。常夜灯は、人々を見守るために船橋の両岸に設置され、ろうそくをともしていたことを知り、足元が暗い中、安全に橋を渡ることを大変さを感じることもできた。



＜船橋跡と常夜燈＞



＜児童の振り返りから＞

船橋はお殿様も通ったことがあったそうです。そのときは、川に入って船を抑え、落ちないように支えていたことを知りました。嵐や台風が来ることが分かったら、船橋はすぐに外していたそうです。橋が流されてしまうと、初めから作り直さなければならないし、その間渡ることができないから、橋を利用する人のことを考えていたんだなと思いました。

Cコース：猪谷関所館（「籠の渡し」「神通川のうまれたところ」の課題に対応）

- ・ 猪谷関所館館長、林先生から籠の渡しの歴史について話を聞いた。籠の仕組みや渡り方等 詳しく話していただいた。

記録では江戸時代から籠の渡しがあったこと、ハンノキを2本つないで作ったことなどが分かった。座るところは、縄で編んだもので小さく、両岸からつないだ引き綱を引いて動かしていることを学んだ。復元した籠の渡しに乗って、揺れを体験し、当時の人々はさぞ怖かっただろうと実感した。一人でブランコのように揺らしながらわたる人もいたことを聞いて驚いていた。安藤広重が浮世絵に描いたり、日本に登山の楽しみを広げたアーノルド・サトウが本に書いたりしたことから、全国に広まったことを学んだ。

様々な文献を調べ、子供たちの質問に丁寧に答えてくださる館長さんの人柄や学ぶ姿に触れ、これからの自分の学びに活かしてほしいと感じた。自分たちが住んでいる地域を誇りに思っしてほしいと感じた。



<児童の振り返りから>

籠の渡しに乗った人は、地域の人や武士、商人だったそうです。売薬さんも乗ったと聞いて、富山の薬がいろいろな地域に広がったことが分かりました。浮世絵にもかかれて、全国で有名になったことを聞いて、神通峡の美しい景色をたくさんの人に知ってもらえて、うれしかったです。

Dコース：アユ・マス・サケ増殖場（「神通川の生き物」の課題に対応）

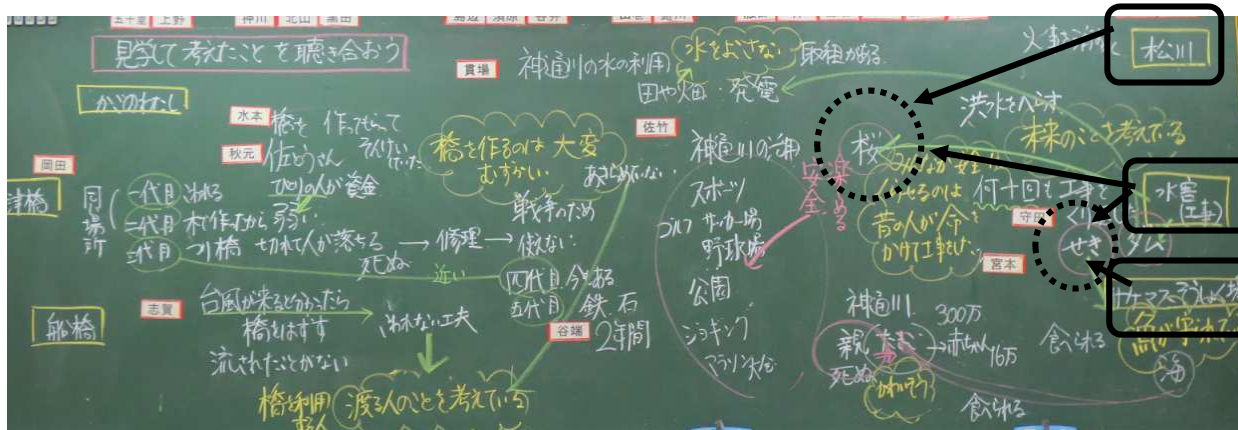
- ・ 富山漁業組合の方にアユやサクラマスの生態や魚を守る取組について話を聞いた。



<児童の振り返りから>

アユは1年間しか生きられないことや、サクラマスは約3年間で生まれた川に戻ってくることが分かりました。増殖所には、アユの子供が200万匹いるそうです。魚に食べられたり、人に釣られたりして魚は減るけれど、増殖所の人々のおかげで守られているのだと思います。この施設があってよかったと思いました。

(6) 見学して考えたことの聴き合い



- ・ Bさんは、川の堤防に桜を植えるのは、サクラをたくさん見るためにたくさんの人が足を運び、土手を歩くことが、土を踏み固めることになり、それが水害予防に役立っていると紹介した。また、Cさんは、水害を防ぐために水をためる堰だが、その横に魚道を作り、魚が卵を産むために川に戻りやすい工夫をしていると発言した。二人の発言を聞いていた子供たちは、観光や水害を守る方法、魚を守る取組は関わり合っていることに気付くことができた。橋がある

からこそ、地域と地域がつながり、人々の生活を豊かにしていることから、今の自分たちの生活があるのは橋を作った人々の苦勞のおかげだと考える機会となった。

今後、神通川とどのように関わっていけばよいのか考えていきたい。追究の過程で、「私はお父さんと神通川に魚釣りに行きます。川の近くにゴミなどがいっぱい流れ着いていたので、私は、ゴミなどを流さないようにしたいと思いました。」と考えた子供がいた。聴き合いをして、「神通川の水は田や畑に利用されているので水を汚さないようにしたい」と考えた子供いた。水を汚さない、花見に行くなど、神通川と自分たちの生活とつなげて、自分に何ができるかを考えさせることを通して、ふるさととの関わりを見つめられるようにしていきたい。

3 成果と課題

○ 成果

- ・ 神通川が生活に果たす役割について理解が深まった。神通川の上流から下流まで見学したことや「神通川」の資料を基に追究を進めたり、専門家の話を聞いたりすることを通して、水害を守る取組と魚を守る取組は関連していること等に気付くことができた。
- ・ 神通川に対する興味が高まった。家族が神通川で釣りをするという子供は、一緒に行ったときはごみを出さないなど、川を汚さないようにしたいと生活と結び付けて自分ができていることを考えることができた。

○ 課題

- ・ 神通川を自分の課題として追究を進めるには、その場に行ってみたり、専門家の話を聞いたりすることで理解を深めることができたが、限られた時間の中で、一人一人の課題に応じた学びの機会を設けることが難しかった。校区内には、笹津橋やサケ増殖場などの施設があるので、子供が自主的に話を聞ける地域の人材を発掘することが必要である。